

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
学術知共創プログラム

よりよいスマートWEを目指して

——東アジア人文社会知から価値多層社会へ——

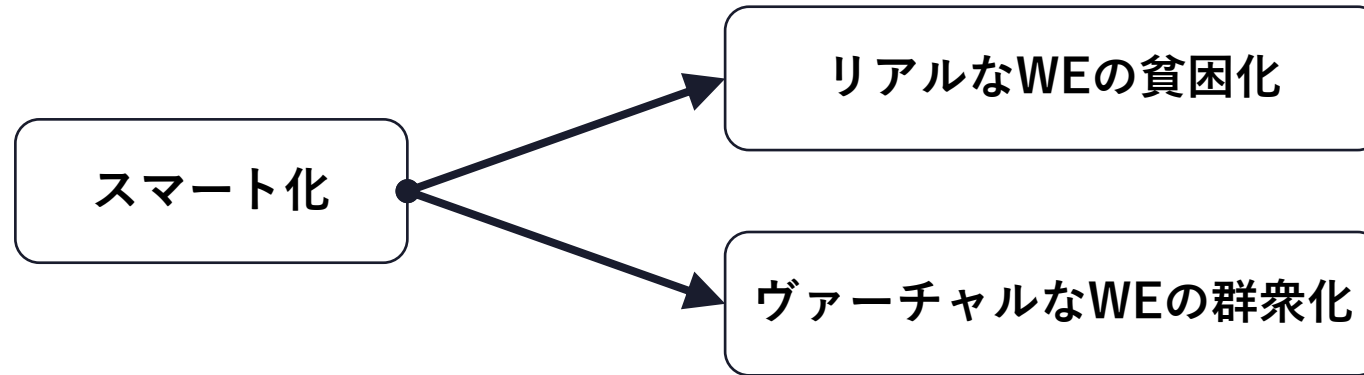
研究活動報告

研究代表者 出口康夫（京都大学）

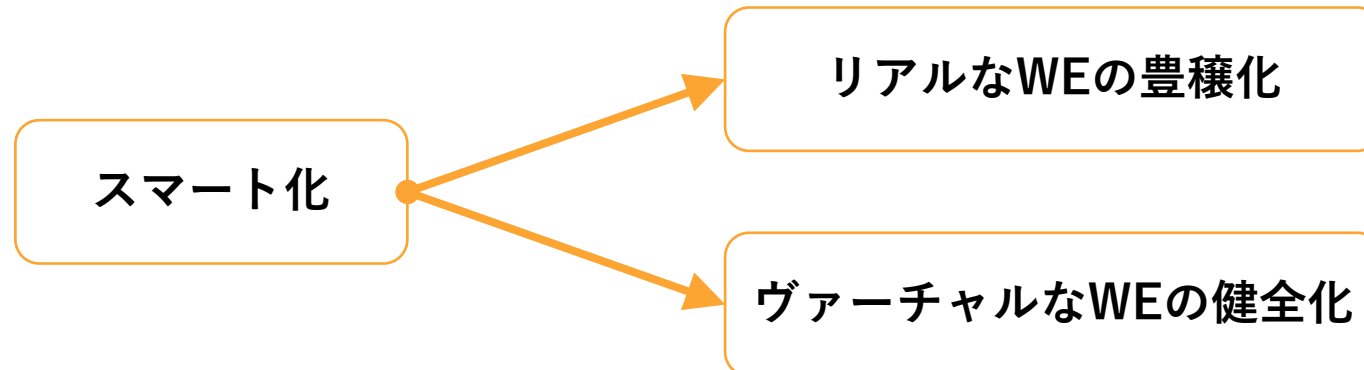
2022年12月15日

ミッション よりよいWE（コミュニティ・絆）形成をもたらすスマート化の処方箋の提案
スマート化のバッドシナリオ（WE問題）を回避

回避すべきシナリオ
（WE問題）

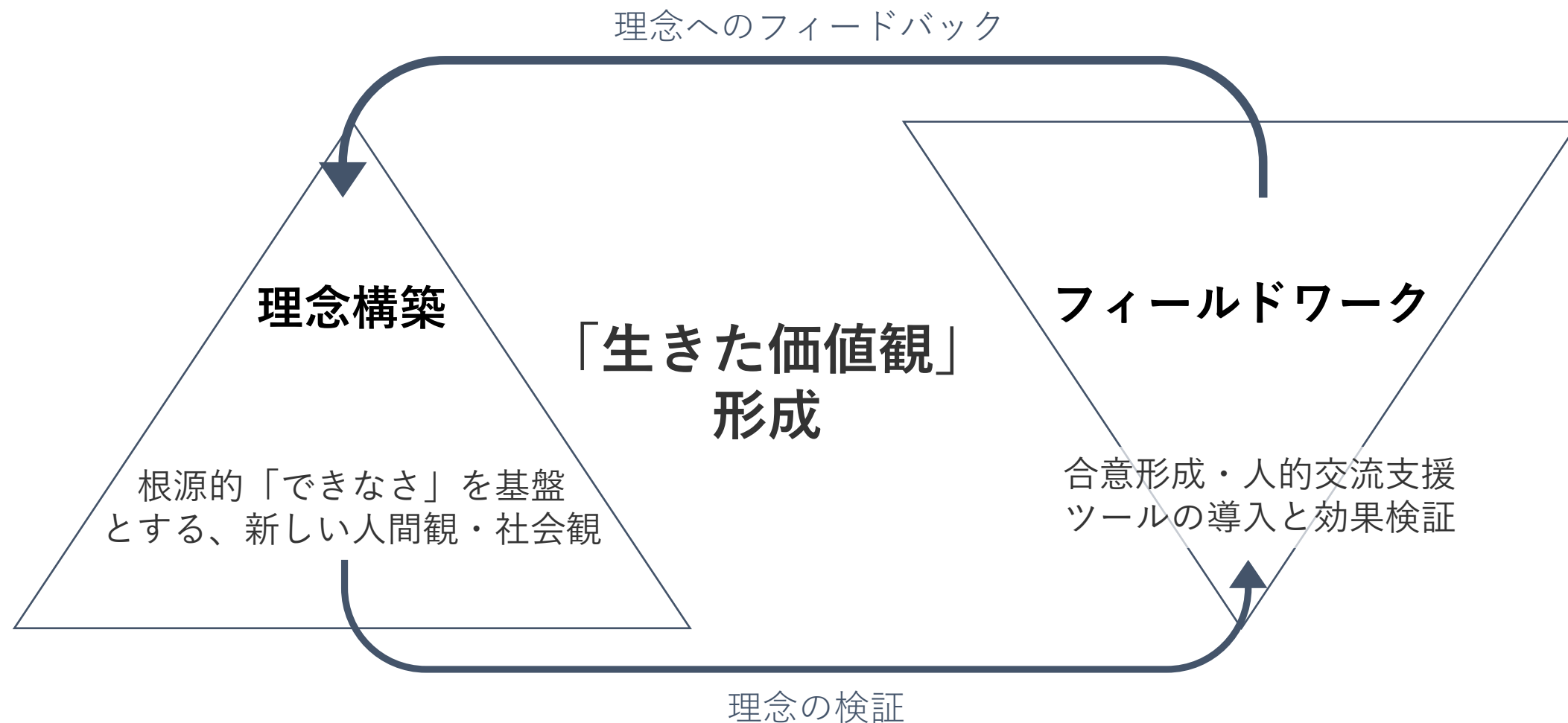


目指すべきシナリオ
（Smart WE）



WE問題の原因： 本来代替不可能な**人間の実存**に関わるコミュニティをあたかも**スマート化**により**代替可能**な機能の集合だととらえる**西洋的人間像・社会像**

	従来の人間観・社会観	本プロジェクトが再構築を目指す 人間観・社会観
背景	西洋的	東アジア的
人間像	一人でも「できる」存在 → 自足的個人	一人では何も「できない」存在 → 聖なる愚者
コミュニティ 社会像	個人だけではできないタスクを 遂行する 単なる機能体・システム → ITインフラによって代替可能	人間の実存 に関わり、個人の ウェルビーイングに必要不可欠 → ITインフラによる 代替不可



レジデンスWE (福井県越前市)

特定の地域に共に棲まう住民同士の間で形成される恒常的で安定的な“WE”

バーチャルな議論に終始し、リアルな共同行為に責任をもって参画しないバーチャル・モビズム



議論参加者をリアルな共同行為へと接続する、合意形成ツールのデザインと運用方法の模索

モバイルWE (小田急沿線)

人流・交通流の中で偶発的・行きずりに発生する“WE”

人流の効率化・省力化による、偶然に生まれる「ゆきずりのWE」の減少・絶滅によるウェルビーイングの低下



「ゆきずりのWE」の再確保を可能とする効率化アプリと意図的人流滞留装置のコーディネート・モデルの模索



見えざる“WE”の発掘・可視化



- ◆ 同じく出口が代表者を務め、課題とフィールドを共有するJST-RISTEX RInCAプログラム
研究開発プロジェクトとの連携

JST-RISTEX RInCAプログラム

課題名：「コミュニティのスマート化がもたらすELSIと四次元共創体制の実践的検討」

研究代表者：出口康夫

採択期間：2022年10月 - 2026年3月

JSPS 学術知共創

人間・社会観の提案

- ◆ 「できなさ」に基づいた人間・社会観の構築
- ◆ 価値観・概念を具体化・検証するためのフィールドワーク・実証実験

具体化



フィードバック

JST/RInCA

社会課題の探索と解決

- ◆ ELSI課題の抽出・整理
- ◆ コミュニティを評価するパラメータ系の構築
- ◆ 技術構築のための本格的なフィールドワーク・実証実験

研究報告①：シンポジウム・研究会



学術知共創合同シンポジウム（日時：2022年8月25日）

- ・ 「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」との共催
- ・ 前半：当プログラムのキックオフシンポ
出口が以下の内容について基調講演を行った
 - ・ 「根源的できなさ」
 - ・ 「自己」を「私（I）」から「われわれ（WE）」へと転換するWEターン
 - ・ 人工物が「共冒険者」として「われわれ」を構成するパラヒューマン社会
- ・ 後半：キックオフシンポの内容を踏まえ、「新たな価値の創造を求めて-“わたし”と“われわれ”の境、人間と人工物の境を問い直す」というテーマでワークショップを開催
 - ・ パネリスト：出口康夫、石黒浩(大阪大学大学院基礎工学研究科)、青木宏文(名古屋大学未来社会創造機構)、堂目卓生(大阪大学社会ソリューションイニシアティブ)
 - ・ 動画公開予定
 - ・ 基調講演の書籍化が進行中



学術知共創プロジェクト 事業総括者
盛山和夫氏による挨拶

各種研究会

- ・ 第一回「ヒュームとWE」研究会（2022年9月22日）
- ・ Rein Raud教授講演会（2022年10月27日）
- ・ Dogen on WE, I, Self & Other Enigmas” ワークショップ（2022年12月5日）



研究報告②：越前市との協力体制構築

■ 市役所・地元自治体・現地の大学と協議を重ね、研究協力体制を構築中

◆ 2022年9月1日：第一回訪問

- 越前市長・市役所の職員との会談
- 今後の方針および研究協力体制構築について
- 地域振興についての意見交換

◆ 2022年10月7日：第二回訪問

- フィールドワーク先となる自治体の会合に出席し、プロジェクトの説明を行った
- その他、関係各所と密に連絡を取り、フィールドワーク実施に向けて協議・調整を重ねている

◆ 2022年11月11日：第三回訪問

- 越前市・市長との会談
- 越前市・仁愛大学との協議

◆ 2022年12月6日：越前市・山田市長京都大学訪問

- 「越前市総合計画」に基づいた共同研究計画策定を開始

■ 2023年2月に越前市役所と共催でシンポジウムを開催予定（詳細未定）



（越前市役所訪問）



（越前市長・京大文学部訪問）

研究報告③：小田急沿線との協力体制構築



- ◆ 2022年8月2日：小田急電鉄本社にて、本プロジェクトの方向性について意見交換
- ◆ 小田急グループが開発を行っているフィールドワーク候補地の視察
 - hocco（東京都武蔵野市／8月2日）
 - ネスティングパーク黒川（神奈川県川崎市／9月29日）
 - カスタネア栗平／栗平LDK（神奈川県川崎市／同上）
 - 下北沢再開発エリア（東京都世田谷区／同上）
- ◆ Odakyu Innovation Week登壇（2022年12月5日）



- ◆ 小田急電鉄と協議を重ねつつ、具体的に導入可能なツール・技術の同定、およびフィールドワークの実施体制の構築を遂行中



研究報告④：その他



プロジェクトHP構築

- プロジェクトに関する情報を集約
- 関連するイベント・業績を発信
- アウトリーチに活用



(プロジェクトHP)

若手共創人材育成

- 専任の特定助教を雇用
- 産官学連携コーディネートに従事



(山形県最上町役場訪問)

新たなフィールドへの視察

- アウトプットの汎用性を高める新たなフィールドワーク先を探索
- フィールド候補である山形県最上町への視察
(2022年11月29日)



(山形県最上町たらふく工房訪問)

5次元共創体制

- 複数の企業の協力を得て、産官学連携プラットフォーム構築に着手